

事業名	鳥獣保護費			調書番号	60
細事業名	愛鳥週間ポスターコンクール実施事業費	財務コード	009105		
担当部課室	森林環境部 部	みどり自然 課	自然保護 担当 (内線)	6508	

## 事業の概要

実施期間	始期 S47 年度 ~ 終期 年度
実施主体	県(直営)
目的	だれ(何)を対象に 県内小中学校及び高等学校の児童・生徒 その対象をどのような状態にして 野生鳥類への関心が高まっている 結果、何に結びつけるのか 愛鳥思想の高揚、普及
内容	小中学校及び高等学校へ募集をかけ、応募された愛鳥ポスターの中から、最優秀賞、優秀賞、入選を決定し、賞品を贈呈し、最優秀賞・優秀賞は、本県代表として(財)日本鳥類保護連盟が主催する愛鳥ポスター原画コンクールに推薦した。

## 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
活動指標	応募学校数	目標	88	79	81	68	63	60	66
		実績(見込)	72	74	62	57	55	60	
		達成率	81.8	93.7	77.8	83.8	87.3	100.0	
		達成区分	b	b	c	b	b	b	
成果指標	応募者数	目標	804	700	649	593	645	640	704
		実績(見込)	636	590	539	586	582	640	
		達成率	79.1	84.3	83.1	98.8	90.2	100.0	
		達成区分	c	b	c	b	b	b	
決算(予算) 単位:千円		42	42	42	42	42	42	42	

## 事業の評価(平成28年度の業績評価)

活動指標	b	評価	少子化が進んでいるにもかかわらず、毎年一定の応募者数を維持できていることから、ポスター原画の作成を通じて野生動物愛護思想の気づきの機会を提供するという点で、意図した成果をほぼ上げている。
成果指標	b		

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。  
・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

## 見直しの必要性(平成30年度に向けた改善等の考え方)

見直しの必要性	判定	<input type="checkbox"/> 必要性が高い <input checked="" type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる <input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input checked="" type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input checked="" type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input checked="" type="checkbox"/> その他(第12次鳥獣保護管理事業計画に定められている。)
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能 <input type="checkbox"/> 成果向上が可能 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
	説明	少子化が進んでいることから、成果向上はあまり望めない。
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある <input type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> その他(26年度に見直しを行い、少子化や学校の統廃合も進むなか、効果が維持出来ており、見直す余地がない)
その他	説明	
見直しの必要性	無	26年度に実施方法等の見直しを行い、27年度の応募者数は増加に転じた。 少子化や学校の統廃合も進むなか、28年度もほぼ横這いであることから、効果が維持出来ていると判断できるため、見直しの必要性はない。

## 見直しの方向(平成30年度当初予算等での対応状況)

現行どおり	説明
-------	----

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。